

証券アナリスト講義録	科目	財務分析	コース	1次対策 横断セミナー	回数	/
------------	----	------	-----	----------------	----	---

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師	谷口 先生
-----	--	--------------------------------------	----	-------

テキスト ページ	黒 板 内 容
	○ 学習の範囲 企業活動 会計処理 → B/S) 分析 35% ※ルール P/L) 株式価値評価 10% ———— 55% ———— 90分 = 90点 1分 = 1点

(1次) 財務分析

1. 出題分析 (全体)

全問マークシート方式の選択問題で、解答数は60問前後となっています。60%以上の得点を効率よく積み重ねるためには、出題傾向が安定している第4問の財務分析問題で、まとまった得点の確保を目指す必要があると思われます。また、第1問の正誤選択問題は、第2問、第3問の計算問題(会計処理等)の知識から正答を得られるケースも多いため、相互に関連付けた学習が効果的でしょう。

図表：財務分析大問別の配点

	H20 春	H20 秋	H21 春	H21 秋	H22 春	H22 秋
第1問 正誤選択問題	30	32	32	30	34	32
第2問 計算問題	20	14	14	16	12	14
第3問	14	18	18	18	18	18
第4問 財務分析問題	26	26	26	26	26	26

計 90 点

2. 大問別出題分析

(1) 第1問 正誤選択問題

正誤選択問題では、特定の分野に偏ることなく幅広い出題が見られます。出題範囲すべての習得は負担が大きいため、まずは頻出論点の習得を優先させてください。

平成 21 年秋 (30 点)	平成 22 年春 (34 点)	平成 22 年秋 (32 点)
①連結P/L	①制度会計	①開示制度
②1株当たり当期純利益	②包括利益	②B/S
③包括利益計算書	③負債会計	③包括利益
④B/S	④C/S	④株主資本
⑤連結純資産の部	⑤利益	⑤損益認識
⑥C/S	⑥収益の認識基準	⑥収益認識基準
⑦損益の認識と測定	⑦工事契約	⑦その他有価証券
⑧有価証券	⑧費用収益の対応	⑧資産評価
⑨デリバティブの会計	⑨減価償却	⑨リース会計
⑩棚卸資産の評価方法	⑩減損会計	⑩連結財務諸表
⑪減価償却方法	⑪リース会計	⑪退職給付会計
⑫貸倒見積高の算定	⑫税効果会計	⑫税効果会計
⑬リース会計	⑬連結P/L	⑬生産性分析
⑭外貨建取引の換算	⑭動的安全性分析	⑭企業評価のステップ
⑮資本利益率の算出方法	⑮社債の格付け	⑮配当割引モデル
	⑯株式価値評価	⑯割引CFモデル
	⑰残余利益モデル	

(2) 第2問 個別計算問題

繰り返し出題される論点も多く、過去の出題と同様の計算手順で解答できる問題も多いため、特に過去の出題の反復練習が有効です。

平成21年秋 (16点)	平成22年春 (12点)	平成22年秋 (14点)
問1 C/S	問1 株主資本	問1 工事契約
問2 経過勘定	問2 割賦販売	問2 減損会計
問3 計数の変動	問3 棚卸資産の評価	問3 退職給付会計
問4 減損会計	問4 税効果会計	問4 資本利益率の分解
問5 貸倒見積高	問5 サステイナブル成長率	問5 株主に帰属する フリーキャッシュフロー (FCFE)
問6 退職給付費用	問6 株主に帰属する フリーキャッシュフロー (FCFE)	問6 残余利益
問7 資本利益率の分解		問7 定率成長モデル
問8 サステイナブル成長率		

(3) 第3問 総合計算問題

第3問の総合計算問題は、第2問に比較し難易度が高い傾向のため、解法の不明な問題等に深入りしない注意が必要です。ただし、設問の全ての難易度が高い訳ではないため、容易に解答可能な論点は積極的に解答する必要があります。

平成21年秋 (18点)	平成22年春 (18点)	平成22年秋 (18点)
I セグメント情報	I 減損会計	I 有価証券
II 株式価値評価	問1 使用価値	問1 期末評価額
問1 予想配当	問2 減損損失	問2 期末評価損益
問2 予想 FCFE	II 退職給付会計	問3 期末評価損益
問3 予想残余利益	問1 退職給付引当金	II リース会計
問4 株主資本の内在価値	問2 勤務費用	問1 現在価値基準
	問3 期待運用収益	問2 リース債務計上額
	III 株式価値評価	問3 リース債務減少額
	問1 予想配当	III 損益分岐点分析
	問2 設備投資額	問1 損益分岐点売上高
	問3 予想残余利益	問2 実際売上高
	問4 株主資本の内在価値	問3 営業レバレッジ

(4) 第4問 分析総合問題

分析総合問題は、1次試験の全配点の30%程度を占めており、その出来不出来が合否に直結すると考えられます。収益性分析と安全性分析を中心とした出題で、出題される財務指標も安定しているため、正誤選択や計算問題よりも、得点を伸ばしやすいと言えます。ただし、問題文や財務諸表など与えられる資料が非常に多いことから、限られた時間で効率よく解答を導き出すための対策が必要となります。

具体的な対策としては、過去の問題等を使用した、定期的な反復練習が有効となります。繰り返し問題を解く中で、基本テキスト等を活用し、頻出の財務指標を中心に、その計算式とそれぞれの指標が意味する内容の習得を図ってください。適切な財務指標の選択を素早く行うためには、それぞれの財務指標の意味する内容を知っている必要があります。また、財務諸表から必要な数値を素早く取り出すためには、計算式を正確に記憶していることが必要です。

正確さに加え速さも要求されていることを念頭に、準備を進めることが重要です。

平成21年秋 (26点)	平成22年春 (26点)	平成22年秋 (26点)
(連結、クロス、海運)	(連結、クロス、小売業)	(連結、時系列、電気)
(1)資本利益率① ROA(2指標分解)	(1)資本利益率 ROA(2指標分解)	(1)資本利益率 ROE(3指標分解)
(2)資本利益率② 経営資本営業利益率	(2)売上高利益率の分析 百分率損益計算書	(2)売上高利益率の分析 百分率損益計算書
(3)売上高利益率の分析 百分率損益計算書	(3)損益分岐点分析 変動費の額	(3)損益分岐点分析 固定費の額
(4)資本回転率等の分析 売上債権回転率 棚卸資産回転率 有形固定資産回転率	(4)生産性分析 付加価値の額 労働生産性 1人当たり売上高 付加価値率	(4)資本回転率等の分析 損益分岐点売上高 損益分岐点比率 (4)資本回転率等の分析 売上債権回転期間 棚卸資産回転期間 有形固定資産回転率 手元流動性比率
(5)安全性分析 流動比率 自己資本比率 固定比率 インタレスト・カバレッジ・レシオ		(5)安全性分析 当座比率 自己資本比率 インタレスト・カバレッジ・レシオ